

動乱の東アジア

— 遣唐使の停止と東国社会の変容 —

日時 平成24年10月20日(土)
10:00~11:30

会場 聖徳大学10号館14階
千葉県松戸市松戸1169
JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

参加費
無料

定員 100名(事前申込不要)

..... 内 容

平安時代前期(9世紀)、唐王朝の衰退により、日本・朝鮮半島を含む東アジア世界全体が動乱の時代を迎えます。894年には菅原道真の建言により、遣唐使も停止されました。

今回の講演では、この東アジア世界の動乱が平安時代の日本、特に東国の社会にどのような影響を与えたのかという問題について考えます。

取り扱う主な史料の一つは、『延喜式』です。『延喜式』とは10世紀前半に編纂された律令の施行細則集で、全50巻の中には政治運営の基本原則から日常生活上の細かな規則まで、さまざまな法律が約3,300条も収められています。古代社会を知るための「百科事典」と呼ぶこともできるでしょう。この『延喜式』の中から興味深い規定を取り上げて、平安貴族や東国の人々がどのような時代を生きていたのか考えていきたいと思います。



講演者

黒須 利夫(聖徳大学人文学部日本文化学科・准教授)

講師のプロフィール

専門分野: 日本史(古代)

筑波大学大学院満期退学・博士(文学)。筑波大学助手を経て、現在、聖徳大学人文学部日本文化学科准教授。

後援 松戸市教育委員会、市川市教育委員会、柏市教育委員会、取手市教育委員会

お問い合わせ>>>>>

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

電話: 047-365-1111(大代)

ホームページ:

<http://www.seitoku.ac.jp/kenkyujyo/gengo/>

